

関連項目：指導体制プラン②、教育活動プラン④

## 異校種・異学年交流を通して互いの理解と連携を深める

### 目的

本校の児童は、同学年児童とはなかよくかかわるものの、他学年や異校種の園児・生徒らとのかかわりが苦手で、人間関係の調整が難しいようです。そこで「魅力ある学校づくり調査研究事業」を通して、交流をキー・ワードに教育活動及び指導体制の工夫に取り組みました。

### 内容

#### ● 集団登校・ペア活動の推進

同じ地域の児童が交通安全面に注意を図りながらも、班員を誘い合って登校することは高学年児童に班長・副班長としての責任感を持たせたり、低学年児童はお世話になっていることを意識させる意味で価値ある活動です。

また、異学年交流の乏しい時代であるため、そうした場を意図的に設けることは今の時代には重要且つ必要な活動だと考えています。運動会では、学級対抗リレーの時にペア学年の応援が自然に始まるなど相手を思う心もうかがえました。ペア活動では自分たちの力で計画を立て、実践することで、活躍する高学年児童を見る低学年児童にとっては感謝の気持ちや「あこがれ感情」が徐々に育っています。

#### ● 小・中の教員の交流

10月から11月にかけて小学校から7名、中学校から8名の教員が交流授業参観・参加を行いました。中学校教員は小学校で自分の専門性を生かして、小学校教員は中学校で既習学習を思い出させるような場面でそれぞれT1となって指導にあたりました。

小学校の児童にとっては、中学校教員の思っていたよりも穏やかな雰囲気を知り、顔を知ることでもでき、そして何よりも優れた技術や技能・専門性に触れて、中学校の壁が少し低くなったようです。

また、教員にとっては、それぞれの学校の風土や特徴・取り組みなどが実感でき、小学校教員は卒業までに身に付けさせておきたい学習の系統や学習規律を、中学校教員は小学校の細やかな個別の接し方や掲示・板書などの教室環境を学び取ることができました。

続けていきたい取り組みの一つです。

#### ● 保・幼・小連携

昨年度までは運動会に校区内の保育所・園、幼稚園にも参加してもらっていましたが、今年度は都合でそれができなくなりました。そこで、小学校の学習参観日に案内したり、時間割に幼稚園の使用時間を確保したり、体験入学を企画したりしました。幼稚園や保育園からも園内公開授業の案内をいただいたり、行事の参観をしたりすることで連携が深まるようにしています。

#### ● 児童・生徒の交流

大規模小・中のため児童・生徒の交流は難しく、一部の生徒と児童の交流にはなりますが、中学生の職場体験時や、6年生を対象にした中学校説明会で、中学校の生徒会に中学校生活についての紹介コーナーを設けてもらうなどして、児童の中学校進学への不安を払拭し、期待と夢を持って入学できるように工夫を加えています。



↑ ペア活動



↑ 交流授業

### 成果

こうした取り組みをすることで、本校では長欠児童「0」を2年間連続で達成することができました。異校種・異学年の取り組みは特に児童の人間関係を円滑にし、思い通りに行かなかったときに、つい手を出していた児童も多かったのが、相手のことを思いやり我慢したりすることができるようになってきていると思います。

また、教員集団も小中の壁が低くなり、互いの違いを認めながらも、顔見知りになることで児童・生徒の問題にともに知恵を出し合うことができる雰囲気が出てきたように感じます。